



小島 智恵 議員
(政風クラブ)

問

明野ヶ丘公園には、パークゴルフ場、スキー場、アスレチック遊具、マウンテンバイクコースなどがある。平成8年には開基百年記念事業によりシンボル施設「ピラ・リ」が建設され、当時はコンサートが開かれるなど賑わいがあり活用されてきたが、その後は老朽化、訪れる人が減少している状況にある。

町では再整備を計画し、基本計画の策定業務に株式会社KITAを決定して、町民ワークショップを2回開催した。

公園再整備では、町民の関心を高め、どのように公園を活用していくかの検討が重要である。また、工事費や維持管理費を抑え、自然を生かした公園整備が望ましいと考え次の点について伺う。

- (1)公園の利用状況、今後の活用について町の見解は。
- (2)再整備の進捗状況は。
- (3)工事規模や予算の想定、財源として「ふるさと納税型クラウドファンディング」の活用は。

問 明野ヶ丘公園の再整備計画は財政的に厳しい目で判断を

答 財源の確保も含め3か年実施計画に計上した上で整備を行っていく

町長(1)把握している利用状況

について、パークゴルフ場は、平成14年以降、毎年6千人前後の利用者数になる。スキー場リフト輸送人数は営業日数により変動するが、令和元年度は28日営業で1万7382人、平成30年度は降雪が少なく営業なし、29年度は49日営業で4万4718人、28年度は73日営業で6万2753人であった。さらには、近隣住民の方が朝夕の散歩に利用されているほか、ピラ・リから眺望できる十勝平野を見に遠方から来られる方や、夏にはスキー場の斜面を利用してグラススキーを楽しむ方など、自然豊かな公園を様々な目的で利用いただいている。

今後の活用については、自然豊かな町民の憩いの場として多くの町民に訪れていただき、子供たちが自由に遊べるプレーパーク、町民が企画・実施する様々なイベントなどに公園を活用してもらいたいと考えている。

(2)町民の意見が反映されるよう、

ワークショップを行いながら業務を進めており、これまでに「ファン・プロジェクトまくべつ」と題して2回開催をした。ワークショップの参加者は、公募による方が7名、その他の大人の方は、委託業者が商業、農業、観光、スポーツ、近隣住民など多方面にわたって町民の話を聞き、声掛けをしていきながら参加を募った12名の方と合わせ19名が参加している。また、ふるさと館ジュニアスクールの子供たちやそのお友達12名も参加いただいている。

1回目のワークショップは、現地で公園の現状を確認した後、町民会館に移動し、「こうなったらいい幕別のまち・明野ヶ丘公園」をテーマに話し合いが行われた。

2回目のワークショップは、第1回の話し合いの結果を基に、明野ヶ丘公園と幕別のまちについて、さらに考えを深めた話し合いが行われた。これらワークショップの内容は、順次ホームページに掲載

し、出された意見の一部を公開し、併せて広報紙にも掲載した。

今後の業務については感染症の状況を十分に見極め、業務成果に影響が出ないよう対応したい。

(3)基本計画が完了するまで工事規模や予算の想定をすることができない。ふるさと納税型クラウドファンディングのほか補助制度など、再整備に係る財源として有効な手法の検討を進める。

再質問 新型コロナの影響で、本町はもとより国の税収も大幅な減収が予想される。工事費や維持管理費のかからない整備の検討は。

答 自然豊かな公園を生かし、ソフト事業を中心に考える必要がある。ワークショップに参加している方の意見を踏まえ、方向性を見出したい。



明野ヶ丘公園展望施設
ピラ・リ